

大会名 Competition	第45回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会女子決勝
No. M-1	Year Month Day Time 2014 年 10 月 31 日 12 : 30
場所 Place	秋田市立体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

主審:Referee
升屋 章 (秋田)
副審:1stUmpire
鈴木健太郎 (秋田)
副審:2ndUmpire
疋田 晋 (秋田)
テーブルオフィシャル:Table officials
金足農高女子バスケットボール部

チームA 湯沢翔北 96 ○	<table border="1"> <tr><td>17 1st 10</td></tr> <tr><td>25 2nd 11</td></tr> <tr><td>24 3rd 13</td></tr> <tr><td>30 4th 17</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	17 1st 10	25 2nd 11	24 3rd 13	30 4th 17	OT	チームB 秋田商 51 ●
17 1st 10							
25 2nd 11							
24 3rd 13							
30 4th 17							
OT							

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	阿部	優美香 CAP	14	1	5	1	1	4	×	土岐	侑加 CAP	7	2	0	1	4
5	×	須田	久瑠実	5	1	1	0	0	5	/	小野	綾莉	0	0	0	0	1
6	×	佐々木	怜音	28	3	9	1	2	6	×	池田	真央	27	0	10	7	2
7	×	加藤	杏香	10	0	5	0	3	7	/	今野	咲	0	0	0	0	0
8	×	宮野	茉恵	3	0	1	1	3	8	/	館岡	果南	5	0	2	1	1
9	/	柴田	知恵	9	1	3	0	1	9	/	千田	結依	0	0	0	0	0
10	/	加藤	舞	4	0	2	0	1	10		安藤	智里	-	-	-	-	-
11	/	松浦	まりん	6	0	3	0	4	11	/	二部	明里	0	0	0	0	0
12	/	千葉	沙希	10	0	4	2	0	12		北林	鈴音	-	-	-	-	-
13	/	高橋	果林	0	0	0	0	0	13	/	高橋	沙弥	0	0	0	0	0
14	/	長澤	のぞみ	0	0	0	0	0	14		関谷	侑子	-	-	-	-	-
15	/	篠原	陽夏	4	0	2	0	2	15		佐々木	慶美	-	-	-	-	-
16	/	高橋	美希	1	0	0	1	0	16		堀端	彩香	-	-	-	-	-
17	/	佐藤	愛莉	0	0	0	0	0	17	×	牧野	遥	7	0	2	3	3
18	/	渡邊	莉穂	0	0	0	0	0	18	/	熊谷	夏海	0	0	0	0	0
19	/	佐々木	理沙	0	0	0	0	0	19	/	出原	愛望	0	0	0	0	2
20	/	鎌田	華	0	0	0	0	0	20	×	原田	未夢	3	1	0	0	1
21	/	佐藤	直	2	0	1	0	0	21	×	手塚	優佳	2	0	1	0	2
コーチ		樋渡	真裕						コーチ		佐藤	和佳					
Aコーチ		熊谷	傳裕						Aコーチ		三浦	康平					
合計				96	6	36	6	17	合計				51	3	15	12	16

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* インドシュート 2P:2P* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

女子決勝戦は、湯沢翔北対秋田商業の対戦となった。第1ピリオド、両チーム共にマンツーマンからスタート。出だしから湯沢翔北が内外とバランスよくシュートを決め7-0とリードする。その後両チーム共にシュートの決まらない時間帯が続いたが、秋田商業#21手塚のミドルシュートをきっかけに#6池田も精度の高いシュートを決め追いすが。しかし、リバウンドで主導権を握った湯沢翔北が着実に加点し17-10で第1ピリオドを終える。

第2ピリオド、両チーム一進一退の攻防を繰り返し、点差の変わらない状況でゲームが進むかに思われたが、ピリオドの中盤から湯沢翔北がオールコートでプレッシャーをかけ始めると、これが功を制しスティールから速攻の流れを連続して作り一気にリードを13点に広げる。たまたま秋田商業はタイムアウトで流れを切ろうとするが、展開を変えることができず42-21と湯沢翔北がリードし前半を折り返す。

第3ピリオド、点差を縮めたい秋田商業は#6池田と#20原田がシュートを決めるも単発に終わってしまい、きっかけを作ることができない。その間湯沢翔北は#4阿部のゴール下、#6佐々木(怜)の1対1を中心にオフェンスの手を緩めず66-34とリードを広げ最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、湯沢翔北は出場した控えメンバーも流れを変えることなく徹底したオールコートディフェンスから相手のミス誘い得点を重ねる。秋田商業も#4土岐の3ポイントなどで積極的にリングに向かうが、終始圧倒した展開を見せた湯沢翔北が96-51で前身の湯沢北高校から通算して、6年連続14回目の優勝を果たした。

文責 【 河村 圭亮 】

得点推移

